

【榎本館長からのメッセージ】

今年も、やってきました！あつい！暑い！熱い！夏。40年ほど前（小学生の頃）は、気温が30度を超えただけで大騒ぎしていたような気がします。近年は35度を超える日も珍しくなく、非常に生活しにくい環境になってきました。「熱中症」のニュースなどは、ほとんど毎日聞いている気がします。皆様、体調管理には十分にお気を付けてください。

さて、このような暑い日が続く中、熱帯植物館では、毎年恒例の夜間開館とスクール体験を用意し皆様のお越しをお待ちしております。今年は例年にも増して木の状態が良く、サガリバナ、ゴレンシ、シクンシ、カカオなどは多くの花芽を付け、元気な姿を見ています。「暑いから行くのはチョット…」という方は、是非夜間開館へお越し下さい。 館長



▲今を生きる古代型魚類と熱帯の不思議な生きもの展

季節イベントの紹介（イベント・展示担当：関）

夏休みは植物館で自由研究のテーマを探してはいかがでしょう？「今を生きる古代型魚類と熱帯の不思議な生きものたち展」として、古代の祖先とほぼ同じ古代型魚類、虫をとらえる食虫植物など気温も湿度も高い熱帯に現代も生息している不思議な生きものを集めてみました。情報ギャラリー、イベントホールにて8月28日まで展示し、皆さまをお待ちしています。

●企画展示関連イベント●

「食虫植物の即売会」(8/6、7)、「昆虫の標本をつくろう(予約制)」(8/21)

また毎年人気の夜間開館も開催しています。閉館時間通常17時を20時30分まで延長し、大温室を開放し、夜のジャングルの雰囲気満喫できる他、様々な催し物も日替りで行います。

【イベントのご案内】

「夜間開館2016」(8/6、7、20、27、28)、「我那覇美奈スペシャルライブ」(8/7)、「熱帯スクール体験」(7/16～8/28の土日祝)、「ウィークエンドコンサート」(8/6、20)、など ※詳しくはイベントチラシまたは夢の島熱帯植物館までお問い合わせください。

館内で見られる植物の紹介（植物館植栽担当：横平）

当館には、食虫植物を集めた温室があり、色々な種類がご覧いただけます。

食虫植物の虫を捕らえる方法も様々あり、いくつかに分類されます。

大まかに分けると、食虫植物の代名詞ともいえるハエトリグサは閉じこみ式になります。葉の上に虫が乗った時、すばやく葉を閉じる仕組みを持っています。同じくムジナモも、水中でプランクトンを閉じこみます。

タヌキモやミミカキグサの仲間は、水中で葉が変形した捕虫囊(ほちゅうのう)という器官で虫を吸い込む、吸い込み式です。

モウセンゴケやムシトリスミレの仲間は、葉に粘液の固まりをつけ、そこに触れた虫をくっつける、粘りつけ式です。生長中でもまもなく展示予定のイビセラ・ルテアも、花以外の全体で虫を粘りつけます。

ウツボカズラやヘリアンフォラ、サラセニアの仲間は、葉自体が捕虫袋となっていて、甘い蜜で虫を誘い寄せます。袋の内部が様々な構造により、一度袋の中に落ちるとよじ登れなくなります。これが落とし穴式です。他にも、ブロッキニアやセファロタスが落とし穴式です。

よく食虫植物に関して、「えさ(虫)をあげているのですか？」というご質問をいただきます。答えは「いいえ、あげていません。」です。虫を食べさせないと死んでしまうということではなく、栄養をとるための一つの手段として虫を捕らえているのです。多くの食虫植物は、栄養が乏しく厳しい環境の中を生き抜くために、長い年月をかけてそれぞれ機能を発達させ、虫を捕るようになったのです。



▲ハエトリグサ（モウセンゴケ科）

虫を消化し終えて、再び葉が開いたところ

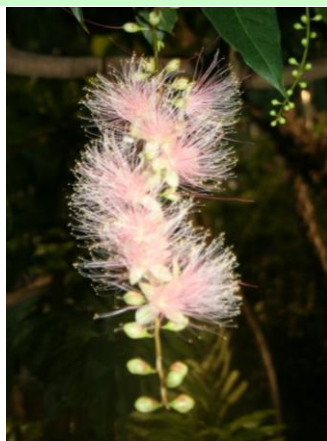
今月の花と実



▲ 月見草



▲ チューベローズ



▲ サガリバナ

♪ この時期の人気者 ♪

夜間開館に彩りを添える花達は、暗闇で良い香りを放ち、虫に見つけてほしいため、目立ちやすく白いものが多く見られます。

純白の「月見草」は、夕方からゆっくりと花を開く、その経過を楽しむのも夏の楽しみの一つ。

「チューベローズ」のゴージャスな香りは、南国気分を一気に高めてくれます。「サガリバナ」は、大温室のマングローブのエリアで見られます。定期的に剪定し

開花調整中！

【サマー入券】団体不可
コーヒー・紅茶 一杯無料
8/1～8/31